

と思う。しいていえばこうした欠かんの一ばん多くあらわれているものは、このごっこ遊びである。ぶらんことかすり台のように、単一の目的を持つ遊びはかんたんであるが、ごっこのように複雑した遊びでは、教師の意図的指導のいかんが、前にいった社会理解のいかんを決定する大きな要素になってくると思う。

そこで幼稚園においても、ごっこ遊びなどの中で、大人のしごとの理解ということ指導者側ははきり考えておし出すべきである。遊びはしごとと続く労働教育の道である。ごっこの中で父や母や社会の人のしごとを理解することを努めてやっっていくべきである。又さまざまな遊びの中で常に施設その他の事物の正しい理解ということを考えていくべきである。知は正しい行動の道しるべである。幼稚園は幼稚園ながらの大人のしごとの理解や社会的事物の理解を促して、子どもの社会性の豊かな思考や行動への基盤に培わなければ、新しい時代の教育にはならないであろう。

(西桜小学校長・同附属幼稚園長)



幼稚園からの

子供を迎えて

—幼稚園と小学校の一貫性—

小 原 武 雄



毎年四月になると、幼稚園を終えた子供たちが大ぜい小学校に入ってきて来ます。入学式の当日は晴々と喜びに満ちた母親が付添って参ります。うれしそうな子、はしゃぎ廻る子、得意そうな子、沈んでいる子、心配そうな子、泣き出す子……等々。

さて、この様々な子供たちを、これからどう指導して行くかということが、一年生担任教師の直面する現実の重大問題であり悩みであります。『近頃幼稚園から来た子供は、前とちがってどうもがさがさしていますね。どうしてこんなに落着きがないのでしょうか』と小学校の教師。『小学校に行っ。た子供は可愛相ね。遊び道具はたったボールだけ、それで毎日あいうえお、一つ二つのおかんじょう、次が何の時間、次が何々、もっと幼稚園らしくなければねえ……』と幼稚園の教

師。この両者の言葉の中に幼稚園並に小学校教育がどう関連づけられなければならないかの問題が潜んでいるでしょう。幼稚園と小学校とが相互に密接な関連を持たない限り、幼稚園教育が進歩すればする程、こんな言葉が多く出て来ると思っています。

幼稚園が学校教育体系の一環として、然もその出発点としては、きり学校の性格を持つようになった以上、少くとも幼・小・中学校は一貫した教育でなければなりません。子供の発達は一連の成長発展であつて、こゝまでが幼稚園、これまでが小学校、それから先が中学校などと限定されるものではないのであります。就中、幼年期の教育、即ち幼稚園、小学校低学年の時期に於ける教育は、その一貫性が無ければ幼児の人間形成の上に一生を通じてかけがえのない成長の芽生えを摘み取つてしまわないとも限らないのであります。

そこで、幼稚園と小学校との一貫した教育をするために、小学校から幼稚園に望みたいことを漁村の立場から——私の幼稚園でやっている實際を申し上げたいと思ひます。

千倉町忽戸幼稚園の概要

- 一、千葉県の南端、漁港として県下屈指の千倉町は人口九、八三三で漁業によつて生きる町である。
- 二、忽戸幼稚園は、小学校附属で併設されている。

三、小学校入学前の全幼児を収容する一年制幼稚園で、実際的には義務制である。

四、園児一五〇名。三学級編制。園長一、教諭三。園費は町費が園児一人当年額三、二四〇円。父兄の直接負担は月額一二〇円。

一、小学校に入学する園児の実際はどうか

一、幼稚園では園児の実際を小学校に知らせる幼児の実際と幼児の生活する地域環境は幼稚園教育の基盤であつて、そこから打ち立てられた教育内容・教育実際でなければ、如何に立派に見える幼稚園でも実は本物ではない。これは小学校でも全く同様である。従つて小学校では入学してくる園児の実際を知りたいのである。故に幼稚園では園児の実際調査が必要欠くべからざるものである。

私たちの幼稚園では入園頭初（四、五月）・中間（九月）・一年後（二・三月）の三回に亘り園児個々についての調査と全体的調査をして、一つには幼稚園で之を利用し、且つは小学校にも知らせている。然らばその調査内容はどんなものであるうか。

二、園児の実際調査の内容（漁師町の立場から）

1 体位及健康

(1) 身長・体重の発達

| | | | | | | | | |
|--------|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 病 氣 | 月 | 四月 | 五月 | 六月 | 七月 | 八月 | 九月 | 十月 |
| | かぜ | 一五 | 一一 | 三三 | 三四 | 六 | 一六 | |
| はし | | 七 | 五〇 | 一六 | 一 | 三 | 三 | |
| 下痢 | | | | | | | | 八 |

実例(一) 四月以降かゝった病氣 (昭和二八年度)

- 2 日常生活に現われた特色 (家庭生活の実態)
 - (イ) 主として幼児の養育に当る者
 - (ロ) 起床・就寝・睡眠時間
 - (ハ) 遊び (場所・一日の遊び時間・種類)
 - (ニ) お小遣い (金額・買喰い)
- 3 社会性の発達 (幼稚園生活の実態)
 - (イ) 幼稚園生活に現われた特色
 - (ロ) 社会性の発達
- 4 知能の発達
 - (イ) 読む力 (平がなのよみ)
 - (ロ) 数える力 (個物を数える)
- 5 性格の発達
 - (イ) 幼児の性質
 - (ロ) 幼児の興味

B 歯みがき

| | |
|------|----|
| 毎日 | 二二 |
| みがかく | 九九 |
| 時々 | |
| みがかく | |
| 殆んどみ | 二八 |
| がかない | |

A 顔あらい

| | |
|------|----|
| 毎日 | 二二 |
| あらう | 二八 |
| 時々 | |
| あらう | |
| 殆んどあ | 一 |
| らわない | |

D 爪

| | |
|-------|----|
| よく切つて | 一八 |
| きれいで | 七〇 |
| いつも | |
| 普通 | |
| 殆んど切ら | 六〇 |
| ないでいつ | |
| もきたない | |

C 頭髮

| | |
|------|----|
| いつも | 三八 |
| きれいで | 九〇 |
| 普通 | |
| きたない | 二一 |

実例(二) 幼児の衛生状態 (昭和二八・四調査)

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|----|----|----|----|----|------|------|------|--------|----|-----|---|---|---|--------|----|
| 腹 | 頭痛 | 頭痛 | 頭痛 | 耳痛 | むし | 気管支炎 | じんぞう | 腸カタル | へんとうせん | 肺炎 | 盲腸炎 | あ | 疲 | う | おたふくかぜ | 計 |
| 二 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 二五 |
| 六 | 五 | 五 | 〇 | 四 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 六五 |
| 五 | 〇 | 一 | 四 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 五〇 |
| 四 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 四二 |
| 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二二 |
| 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二四 |
| 一 | 六 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一六 |

E 鼻しる

| | | |
|-----|----|------------------|
| きれい | 普通 | いつもたらし いてきたない |
| 五四 | 六六 | 二九 |

G 服装

| | | |
|-----------------|----|------------|
| いつもきちん としている | 普通 | だらしが ない |
| 五九 | 六五 | 二五 |

F 皮ふ

| | | |
|-----|-----|--------------------------|
| きれい | 普通 | よこれたりあか がついたりして いる |
| 二五 | 一〇一 | 二三 |

この二つの調査から、幼児は活動的で健康そうに見えるが割合弱い。また衛生状態はよくない。これ等は漁師町としての生活環境から来る影響が大きいことが分るのである。

実例(三) 家庭でどんな遊びをしているか (四月調査)

| | | | | | | |
|-------|-------|-----|-------|------|------|--------------|
| まご | かくれんぼ | 三輪車 | あやとり | まりつき | 砂遊び | ぬりえ、めんこ、木のり。 |
| 四四 | 二〇 | 一五 | 一四 | 一四 | 一〇 | 魚つり。 |
| 人形ごっこ | 絵本 | 水遊び | 遊びごっこ | 虫とり | つけかけ | 川遊び |
| 九 | 八 | 七 | 七 | 七 | 七 | 六 |

その他
つみ木。

まごごと・かくれんぼなど簡単な原始的な遊びが多い。

実例(四) お小遣い(殆んどが買喰いに使われる) (四月調査)

| | | | | | |
|----|-------|-------|--------|---|---|
| 金高 | 五 | 十 | 十 | 二 | 三 |
| 計 | 十 | 十五 | 十 | 五 | 三 |
| | 円 | 円 | 円 | 円 | 円 |
| 區別 | 毎日もらう | 時々もらう | たまにもらう | | |
| | 二〇 | 六六 | 一九 | 七 | 〇 |
| | 一一三 | 七 | 一 | 二 | |

お小遣いは相当な額である。幼児時代から買喰い、浪費の好ましくない習慣がつくられているのが、漁村の大きな問題として取り上げられなければならない。

実例(四) 幼稚園生活に現われた特色 (四月調・九月調)

| | | | |
|---------------|---------------------|-----|---------------------|
| (1) 登園する | ひとりです 元氣よく くる | 普通 | ひとりです 登園でき ない |
| 四月 | 三〇 | 八八 | 二五 |
| 九月 | 九〇 | 五七 | 一 |
| (2) 自分で物を始末する | よく出来 る | 普通 | 仲よく遊ぶ |
| 四月 | 三一 | 七五 | 三七 |
| 九月 | 五八 | 七三 | 一七 |
| (5) 人のめんどうをみる | よくする 時にする | しない | |
| 四月 | 一四 | 八四 | |
| 九月 | 二六 | 八七 | |
| (6) 仲よく遊ぶ | よく出来 る | 普通 | 仲よく しない |
| 四月 | 一七 | 九五 | 三一 |
| 九月 | 五八 | 七九 | 一一 |

(3) 幼稚園の品物を大事につかう

| | | | | |
|----|----|-------|----|------|
| 九月 | 四月 | 大事にする | 普通 | らんぼう |
| 四〇 | 一八 | 九三 | 九〇 | 一八 |

(7) 仕事に参加し協力する

| | | |
|------|----|---------------|
| よくやる | 普通 | 参加せず協 力しない |
| 一八 | 九〇 | 三五 |
| 五七 | 八三 | 八 |

(4) きまりを守る

| | | |
|------|----|------|
| よく守る | 普通 | 守らない |
| 一四 | 九九 | 三〇 |
| 四六 | 八四 | 一八 |

(8) よく腹を立て、けんかする

| | | |
|------------|---------------|------|
| 決してし ない | 時にするこ ともある | よくする |
| 二八 | 八六 | 二九 |
| 五七 | 七五 | 一六 |

(9) 人に迷惑をかけ、いじめ
る

| | | |
|------------|----|------|
| 決して しない | 普通 | よくする |
| 三二 | 八二 | 二九 |
| 七〇 | 六二 | 一六 |

(10) 教師の言をきかなかつた
り、反抗したりする

| | | |
|-------------------|----|-----------------------|
| よくき、 反抗しな い | 普通 | 反対の言動 をしたり反 抗する |
| 三三 | 九二 | 一八 |
| 八〇 | 六六 | 二 |

二、幼稚園でどんな指導をうけてきたか。

小学校でぜひ知りたい第二の点は、幼児が幼稚園でどんな指導を受けて来たかということである。これには次の三つの問題がある。

一、幼稚園で、どんなカリキュラムによって指導されてきたか。

小学校一年の教育課程は、幼稚園課程を基礎として發展的に構成されなければならない。そのためにはどうしても幼稚園のカリキュラムを知る必要がある。私たちの幼稚園は小学校附属で併設、然も全幼児入園であるから、両者の関連は比較的容易で問題は殆んど無い。所が独立した幼稚園で然も多種多様な色彩を持つ色々な幼稚園から入学してくる小学校では、相互の関連が仲々困難であろう。その方法は後に述べることにする。

二、どんな方法で指導されてきたか。

幼稚園と小学校では、指導方法乃至は教育形態が相当違つた面もある。幼稚園では生活単元による総合的指導がとられるが、小学校では主として教科を中心とした学習指導の方法がとられる。幼稚園では日課は定められてあるが、小学校の様に細かく限定されないし、また強いて之にこうでいする必要もない。又幼稚園では遊びや仕事を幼児自身が自由に選択してやる場合もあるし、やりたくないものはやらなくともよい。所が小学校で体育はやりたくないから、音楽はやりたくないからでは困る。斯くの如く相違した方法がとられるからその橋渡しをよししなければ、所謂木に竹をつぐ結果となり子供は迷い、教師はお互いに不平非難をもらす様になる。

三、どんな躰をされてきたか。

幼稚園が幼児の社会性の芽生えを養い、その生活態度を正

しく導くことをねらいとしており、正しい生活態度は躰であるといつてよいから、子供が幼稚園でどんな躰をされてきたかは、それが直ちに小学校にとって大きな問題となる。私たちの小学校で特に幼稚園に望みたいことは、次の事柄であった。

- 1 話しを聞く態度をつくつてもらいたい。聞きたい者は聞く、聞きたくないものは聞かない様な態度では困る。
 - 2 自分で考える態度を作ってもらいたい。近頃の子供は自分で考える力が乏しい。
 - 3 子供が学校生活に慣れるのはよいが、変に慣れては困る。
 - 4 子供に恐怖心を持たせない様にしてもらいたい。特に先生はこわいもの、叱るものなどの観念は絶対に禁物である。
 - 5 平がなの筆順の誤りを幼稚園で放任しておく、習慣となつて小学校一年での矯正に骨が折れる。
 - 6 左ききは幼稚園で出来るだけ矯正してほしい。
- 今迄述べ来たことは、幼稚園・小学校の教育を一貫させるために、必要な相互に連絡すべき内容に過ぎない。故にその一貫性を実現するためには、どうしたらよいかということが次に来る最も大切な問題である。
- 三、幼稚園小学校の連絡はどうしたらよいか。

幼稚園と小学校が相互に連絡することは教育の一貫性を確立する上に必要欠くべからざることである。そこでどんな仕方でも連絡したらよいか問題となる。之に対し、私たちのやつて来た實際を述べて参考にしてもらいたい。

一、幼稚園教師と、小学校低学年教師の連絡協議会を開くこと。

この協議会は少くとも毎学期一回は開くのである。こゝで幼稚園、小学校両者から夫々園児児童の實際や指導内容、指導方法等話し合い、又色々な問題や悩みに就いても話し合うのである。こうすると前節で記した様な多くの問題が出て、お互いに理解し、お互いに利益する所が極めて大きいのである。

二、平素授業の相互参観をする。

話し合いによつて或る程度相互の理解が出来るが、これは最も具体的な實際的な連絡の方法で、然も最も有効である。即ち我々は現場を見ることによつて、幼児生徒の實際も指導内容もはっきり知ることが出来る。そして、授業は平素そのまゝの授業であつて決して見せ物式であつてはならない。この授業相互参観は少くとも毎学期一回は必要である。

三、各種研究会は幼稚園、小学校低学年合同で催すこと。

昭和二十八年、千葉県内に於ける幼稚園教育研究会にはそれが県全体に於ける地区別に於ける、小学校へも案内状を出し

又小学校低学年研究会には幼稚園にも呼びかける様にした。又幼稚園、小学校低学年合同の研究会も開催した。これは誠に結構な傾向で、今後こうした研究会を益々充実発展させたものである。

X X X X X X

私は幼稚園を終えた子供たちを小学校に迎えるに当って、幼稚園教育と小学校教育とが一貫すること。そして、それには両者が緊密な連絡をとる必要があることを強く考えるのであります。さて、その連絡は一体誰がするのでしようか。云うまでもなく教師自身であります。ところが、お互いに連絡することそのことが、既にむずかしいことであるに違いありません。

けれども、これは必ずしなければならぬことです。連絡することは、幼稚園、小学校教師が幼稚園を知り、小学校を知り、お互いに幼児、児童を知り、教育を知ることでありませぬ。然らば、連絡するということは結局教師自身の研修であり、教師として自己を太らせることになります。

そして、斯くの如き教師でこそ幼稚園教育を、又小学校教育を本当に実践し得る立派な教師であると思えます。私は幼稚園教師並びに小学校低学年教師に、今年は必ず相互に連絡を実際に行う様おすゝめいたします。

(了)

(千葉県千倉町立忍戸小学校長・同附属幼稚園長)

教育実際指導研究会

題 幼児の生活経験と環境

期 昭和二十九年六月二、三、四日

会 場 お茶の水女子大学

詳細は次号に掲載いたします。
昭和二十九年三月

主催 お茶の水女子大学

児童教育研究会

幼児教育研究会

協賛 お茶の水女子大学文教育学部内

教育研究室

訂正及びお詫び

幼児の教育第五十三巻第三号(三月号)中、玉川喜代子先生の「私が見た三十九年間の保育界のあれこれ(福島県)」の文の三十九頁と四十頁は、逆になつております。

筆者並びに読者の方々に大へん御迷惑をおかけしたことを深くお詫びいたしますと共に謹んで訂正いたします。